

光る村を目指して現地調査（広島県佐伯郡吉和村）

中山間地域分科会
藤井俊郎

I、はじめに

中山間地域が抱えている問題は深刻である。人口面での少子化の進行、若年層の流出、主力世代の高齢化等が、各産業の後継者不足をもたらし、耕作放棄地の増加や商店街の衰退といった深刻な現象が現れている。今後は、集落機能の一層の弱体化や集落の消滅等の心配も出てくる。

平成12年の国勢調査で、島根県の人口は平成7年に比べて1.3%減少し762千人となり、高齢化率は3.1%増加し24.8%となった。この傾向は、中山間地域で特に顕著に現れている。

島根県の59市町村の内、54の市町村が中山間地域であり、島根県が抱えている一番大きな問題は、中山間地域問題といつても過言ではない。

当分科会では、地域振興の面で成功していると思われる広島県の吉和村を調査することにした。吉和村を選定した理由は、人口が853人(H12年)と少ないのにもかかわらず、昼夜間人口比率が115%(H7年)と高く、また年間51万人(H12年)もの観光客が訪れる活気のある村だからである。

本稿では、吉和村の観光振興という観点から、観光産業の分析を踏まえて村の成功要因と今後の課題について述べる。

II、吉和村の村勢

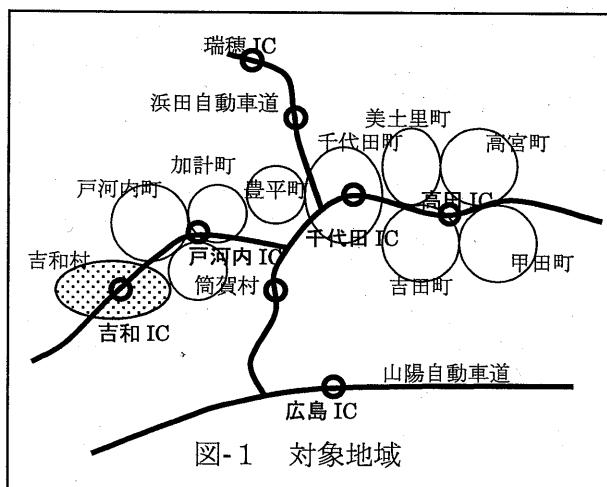
平成12年の村の人口は853人であり、広島県内73町村の中で一番少ない。平成7年に対する人口減少率は△6.8%であり、18番目に高い。また、世帯数は397であるが、村内には440～450戸の別荘がある。高齢化率は37.6%であり、21番目に高い数字となっている。

村の地形は高原盆地状をなし、面積は9番目に大きい。特に森林面積の割合は94.5%であり、宮島町(96.5%)に次ぎ2番目に高い。村ではグリーンツーリズムの観点から、この森を活用して都市と農村との交流事業を推進している。

交通のアクセスについては、村の中心に中国縦貫自動車道の吉和ICがある。広島市内からの自動車での所要時間は、高速道路で約1時間、一般道でも約1時間半となっている。

III、吉和村の観光産業の分析

吉和村の観光産業を分析するあたり、交通アクセスという観点から、高速道路IC沿線の町村を設定し、これらの町村との比較により分析することにする。当該村と同様に広島市内から約1時間程度でアクセスできる中国縦貫自動車道IC沿線の10町村を図-1のとおり選定した（以下「対象地域」という）。以下、吉和村をこの対象地域との比較により分析していく。



(1)観光産業の役割

当該町村地の就業者数に対する、他市町村からの通勤者数の比率を「就業者流入率」とし、また町村在住の就業者数に対する、勤務地が当該町村地内である就業者数の割合を「内部就業率」とし、その関係を図-2に示す。

吉和村は人口規模は小さいが、村内の就業者に多くの働き場所を提供している一方で、村の産業は、村外からの就業者に支えられていると言える。

次に、産業別の町村内総生産額の内訳をみてみる(図-3)。

サービス業のシェアが一番高いのは吉和村であり、観光産業のウエイトが比較的に大きいことがわかる。吉和村のサービス業の総生産額は約14.6億円であり、電気・ガス・水道事業の約18.7億円、建設業の約16.7億円につづいて、三番目に大きい額となっている。

(2)観光客の推移

総観光客の推移を図-4に示す

県全域の総観光客が年平均約3.2%増であるのに対して、対象地域は昭和58年の中国縦貫自動車道の開通以来、年平均約7.7%増となっている。吉和村は、平成2年をピークにほぼ横ばい傾向にある。これは、他の町村が積極的に観光施設を整備し、観光客を誘致した結果である。具体的には、ニュージーランド村(H2年:高宮町)、温井ダム周辺整備(H4年~:加計町)、どんぐり村(H6年:豊平町)、神楽門前湯治村(H10年、美土里町)等の整備があげられる。

吉和村村内の観光客の推移をみると(図-5)、中国縦貫自動車道開通から、平成2年頃までは、もみのき森林公園が主に観光客を誘致していた。しかし、平成3年には施設整備が完了し、観光客の入込は減少していった。その後は、魅惑の里(H6年)、クヴェーレ吉和(H7

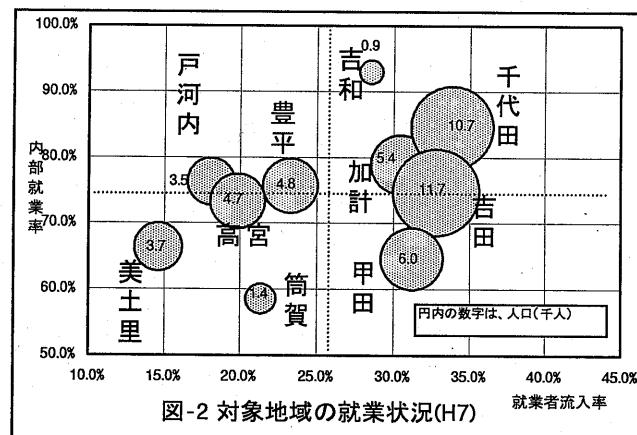


図-2 対象地域の就業状況(H7)

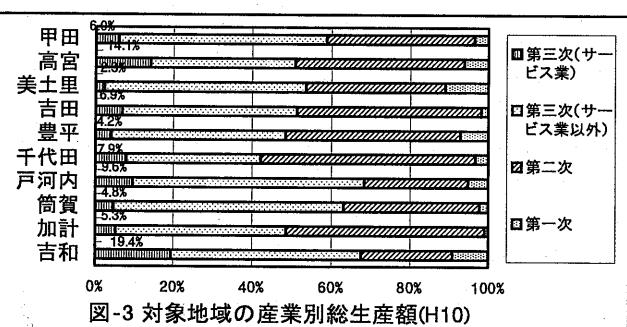


図-3 対象地域の産業別総生産額(H10)

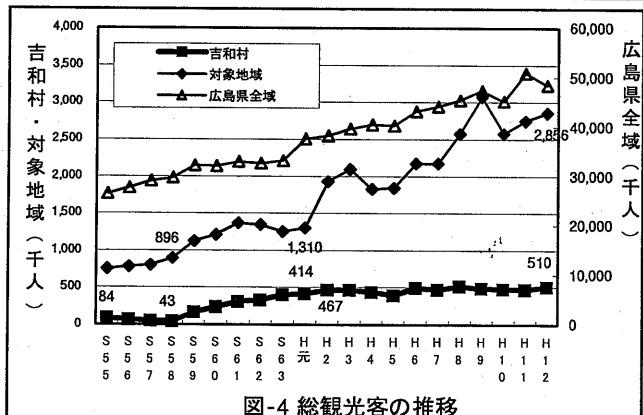


図-4 総観光客の推移

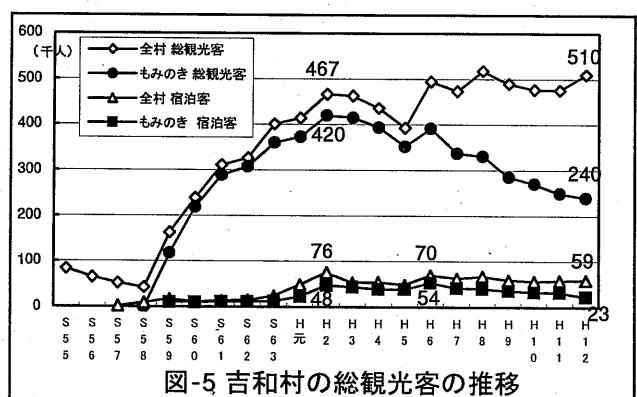


図-5 吉和村の総観光客の推移

年)、めがひらスキー場(H10年)等が整備され、結果としてもみのき森林公园の観光客の落ち込みを補った形となった。

平成12年の村内主要観光地の観光客数と宿泊客数を図-6に示す。

図-5および図-6から、もみのき森林公园の観光客および宿泊客のシェアが落ちていることがわかる。また、平成12年の入込客数に対する宿泊客数の割合を計算してみると、魅惑の里が12.9%、クヴェーレ吉和が18.6%であるのに対して、もみのき森林公园は9.7%と低い値となっている。

(3)経済効果

対象地域内の観光客数と観光消費額のシェアを図-7に示す。

対象地域全般に言えることは、観光客数のシェアと比較して、観光消費額のシェアが低いといえる。吉和村は、観光客数のシェアが高い割には、観光消費額のシェアが低い。平成12年の吉和村の観光消費額は5.8億円であり、観光客一人当たりでは約1,100円となる。観光客の消費活動は低いといえる。

(4)ソフト事業の展開

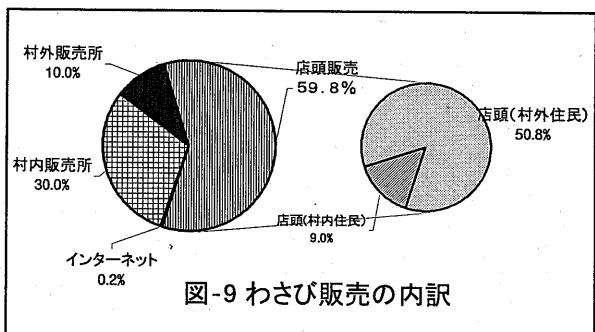
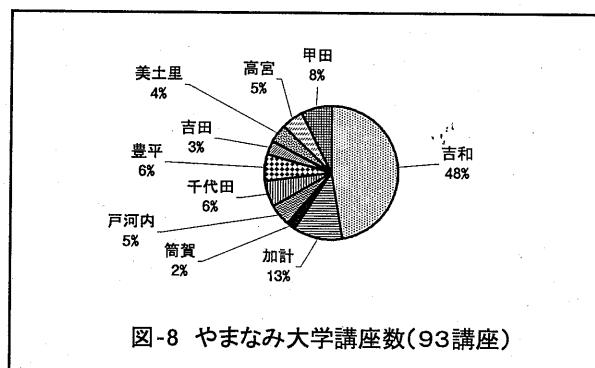
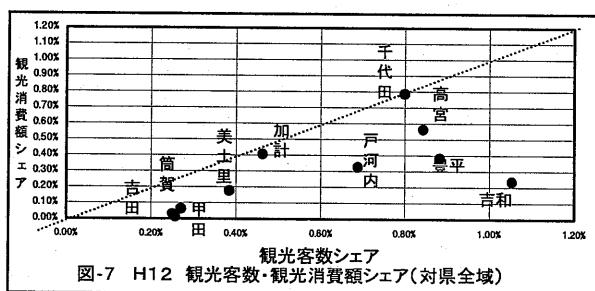
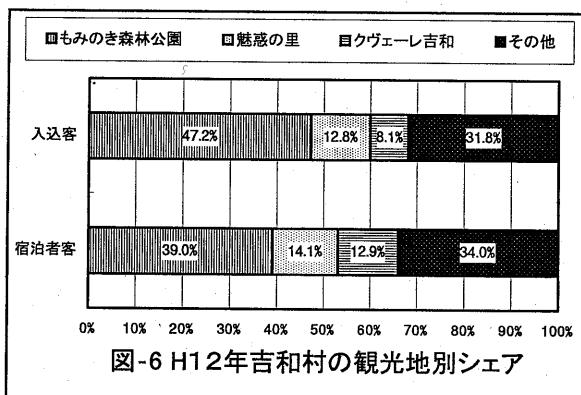
広島県は、自然とのふれあいや伝統文化の体験を目的として、中国山地にある町村をキャンパスとして「やまなみ大学」という体験学習講座を開設している。各町村内でそれぞれ講座を企画し、都市部との交流事業を行っている。

やまなみ大学に登録されている対象地域内の講座数の内訳を図-8に示す。講座数の48%を吉和村が占めており、また、全講座の受講人數の多いベスト20の中に、吉和村の講座は4講座入っている。

(5)特産品の販売状況

吉和村の特産品であるわさびは有力な商品である。町内には3軒のわさび店があるが、その内の1軒について商品の販売先についてヒアリングをした結果を図-9に示す。

総売上の内、観光客が買ったものと思える「店頭販売の村外者」と「観光施設等の村内販売所」を足すと総売上の80.8%を占



めることになる。また、現在の売上高は、昭和 57 年（高速道路開通前）と比較して約 2.5 倍に増えている。

IV、考察

(1)成功要因

- ①観光資源の効果的な活用：高速道路開通を契機として、官民が役割分担をしながら、吉和村の強みである雄大な森林（自然）を活用とする観光拠点施設を重点的に整備している。
- ②多種多様なソフト開発：観光拠点施設において、自然の学習体験を主とした多種多様で魅力のあるソフト事業を展開している。
- ③観光客をターゲットにした地場産業の展開：村の特産品として、わさび以外にも冠山の水、養殖アマゴ、ハーブ製品、高原野菜等の多くの特産品がある。吉和ブランドとして付加価値を付け、イメージを高めて販売している。

(2)今後の課題

- ①多様な連携の推進：今までの着実な観光客の伸びは、観光施設整備によるものであった。しかし、今後は厳しい経済状況等により新たな施設整備は困難と予想される。したがって、村内施設間の連携はもちろん、高速 IC 沿線の対象地域が一層の連携を図り、イベントカレンダー等をつくるなどして内外に PR する必要がある。
- ②一層の魅力あるソフト開発：平成 14 年度から学校週休 2 日制が始まり、宿泊型の需要が高まる可能性が高い。従って、魅力ある一泊二日型等のソフトを開発し、観光客にお金を落としてもらう取り組みが重要となる。特に留意すべき点として、村内にある競合施設において、明確な特色を打ち出し、差別化を意識してソフト開発をする必要がある。
- ③人材の育成：ソフトを実行するのは人である。吉和村のインターネットを検索しても情報発信している個人・組織は少ない。特に、商工会のメンバーが中心となって、観光客をターゲットにした利益が出るソフト事業を展開していくことが村の発展にとって大切と考える。

V、おわりに

以上、吉和村の観光産業を分析し、村の成功要因と今後の課題について述べた。

吉和村は、平成 15 年 3 月の廿日市市・佐伯町との合併に向けて現在準備を進めている。吉和村のように人口規模が小さいところは吸収されるようなイメージがある。しかし、吉和村には大森林という価値の高い財産があり、またそれに関する観光拠点も整備されている。あとはその運用次第で、きらりと光る地域として生き残る可能性が高いと考える。

最後に、ご多忙中にもかかわらず当分科会の視察にお世話をいただいた吉和村の中田産業観光課長様、また、貴重なアドバイスをいただいたもみのき森林公园の梅田支配人様、商工会の眞田様にたいしましては、心より感謝の意を表します。

（参考文献）

- 1) 広島県：広島県入込観光客の動向、昭和 57 年～平成 12 年
- 2) 吉和村：広島県吉和村勢要覧
- 3) その他、吉和村村内観光施設のパンフレット等